

教育的価値	具 体 の 項 目	教 育 課 程
2 【かかわる】  3 【そなえる】  1 【いきる】	⑨【仲間や地域の人々のつながり】幼児や高齢の人々・障害のある人々が一緒に生活している地域社会において、互いに支え合う大切さや地域のありがたさを実感する ⑫【自分と地域社会】自然災害が、暮らしの変化や地域経済に与える影響について理解し、自分と地域社会との関係について考える。 ⑮【東日本大震災津波の様子と被害の状況】平成23年3月11日に発生した、東日本大震災津波の様子と被害の状況について理解する。 ③【価値ある自分】どのような状況においても自分の存在を認め、必要とされる存在であることを認識する。	教育課程外  総合的な学習の時間

【題材】

- 1 復興教育講演会 「暴れ狂った海 ～東日本大震災津波と三陸沿岸を襲った津波の歴史に学ぶ」
- 2 河南中・見前中あったかProject  
「山田町復興状況見学・復興ソングでひとつになろう」

【対象】

- 1 復興教育講演会 全校生徒および保護者、地域住民
- 2 生徒会執行部 23名 その後生徒集会時に生徒会執行部から全校生徒へ伝講

【実践の概要・詳細】

- 1 復興教育講演会 9月6日（金） 講師 釜石市学校教育アドバイザー兼教育相談員 熊谷 勵 氏  
・資料 「被災状況とその教訓」を全員に配布

① ねらい

東日本大震災津波のつらく悲しい体験をそのまま終わらせることなく、ともに手を取り合って、希望と勇気をもって前に進んでいくために、東日本大震災津波の教訓を生かし、郷土を愛しその復興・発展を支える人材の育成に資する。

② 概要

東日本大震災津波の実態、中学生が岩手の復興に果たす役割、地域社会の一員としての在り方など具体例をもとにお話いただいた。

「暴れ狂った海」は講師熊谷勵氏が、大船渡市の綾里小学校で津波防災劇の演題であり、東日本大震災前から劇の指導を通して震災体験を後生に語り継ぎ、将来につなげることが大切であると話された。

③ 生徒会長 大志田拳君の感想

震災から2年半たち、遠い昔のように感じていたが、忘れてはならないと強く感じた。また、内陸部に住んでいても集中豪雨や竜巻、ゲリラ豪雨が起きている。自分の身は自分で守るということともに、中学生として自分たちが地域社会に貢献できること、特に小さい子どもやお年寄りなど弱者を助ける役割を意識して果たしていきたい。

見前中学校 第67期生徒会スローガン 「想創」 ～ 築く未来に心をのせて ～

校報 ひばり

平成25年 9月9日（月）  
盛岡市立見前中学校校報  
文責 副校長 福島 則秋 NO.17

2020年、東京オリンピック開催決定！東北は再び復興か？いやいやいかに決まっている。「未来は美しい」努力を惜みず、自分の未来は自分で築くのだ！

平成25年度 盛岡市立見前中学校 復興教育講演会 熊谷 勵 先生にお話いただきました。

「自分のやりたいことをしっかりとやりなさい！」

9月6日（金）盛岡市立見前中学校復興教育講演会がありました。現在釜石市学校教育アドバイザー兼教育相談員の熊谷 勵（はげむ）先生にお話いただきました。勵先生はご自身のことをあまりお話にならなかったのですが、少し紹介します。

先生は、中学校を卒業してすぐ働きはじめます。高校は働きながら定時制高校に通いました。定時制高校を卒業して、学校事務職員として働き始めます。その間10年です。学校事務職員として働いているうちにどうしても学校の先生になりたくて、働きながら通信教育を受けて教員免許を取得。そして、岩手県の教員採用試験を受けて、晴れて小学校の先生になります。ご自身のキャッチフレーズは「事務職員で10年。担任で10年。校長で10年。」です。どうですか、すごいですね！すごすぎです。自分の意志で自分の人生の道を切り開いてきたのです。

勵先生のおいしさんにあたる人は、明治の三陸大津波で家族の中でただ一人生き残った人です。お祖父さん・お祖母さん・父さん・母さん、兄弟全部津波にのまれてしまいます。明治29年のことです。その後、一人取り残された少年は、きっと過酷な人生を歩んだことでしょう。それでもしっかりと家庭を築き、子孫を残し「津波の恐ろしさ」を伝えたのです。

勵先生は、自分のお父さんから聞いたそのお祖父さんの体験や津波の恐ろしさを、自分の教え子たちに伝えようとして。そこで、「暴れ狂った海」という劇の脚本を書き、子供たち自身に演じさせることで、子ども・家庭・地域を巻き込んで津波に対する防災教育のタネをまいたのです。

皆さんが講演会の最後で見た「学校劇」の映像は、東北大震災の起きた2年前の映像です。「人々を襲う大津波は必ず来る！」そういう信念のもと取り組んでこられたのです。

「先生は東北大震災のあった時に、自分の教え子達の心配はしましたか？」と講演会の終わった後に聞いてみました。

「いや、まったく心配していませんでした。劇をやったり津波の看板を立てたり、日頃から『地震があれば津波が来る』と地域ぐるみで取り組んでいたの、綾里地区は人的被害はないだろうと安心していました」と話されました。これまた、「すごいなあ！」と頭が下がりました。

さて、先生が私たちに講演の最後にお話下さった言葉が「自分のやりたいことをしっかりとやりなさい！」ということでした。「そのことがつまりは岩手県の復興につながる」ということでした。熊谷勵先生、ご講演大変ありがとうございました。



## 2 河南中・見前中あったかProject 「山田町復興状況見学・復興ソングでひとつになろう」

(1) 10月27日(日)

- ・山田町復興状況見学・説明会 場所 山田町旧魚市場 講師 マルイチ水産取締役 鈴木淳一 氏
- ・宮古市立河南中学校文化祭「河南祭」に参加 場所 宮古市立河南中学校

(2) 12月20日(金)

- ・盛岡市立見前中学校 2学期末 生徒集会

見前中学校 第67期生徒会スローガン 「想創」 ～ 築く未来に心をのせて ～

平成25年 10月30日(水)  
盛岡市立見前中学校校報  
文責 副校長 福島 剛秋 NO.24

10月27日(日) 山田町に行ってお話を聞いてきました。  
また、宮古・河南中学校の文化祭に参加し、  
交流を深めました。



今年度、見前中学校は「いわての復興教育支援事業」の指定を受けています。  
10月27日は、66期生徒会執行部と67期生徒会執行部を中心とした23名が山田町で被災時の話を聞き、宮古市立河南中学校を訪れ、交流してきました。  
山田町では、あと一・二週間で取り壊される魚市場でマルイチ水産取締役の鈴木淳一さんからお話を聞きました。

「この市場は、津波にのみ込まれました。この屋根を越えて津波が襲いました。大きな地震のあと、うちの会社で働くおばさんたちをバスに乗せて家まで送り届けたときに、津波がやってきました。川の堤防の横を走っていましたが、バスにバスがバシバシと水が掛かるのですが、なんのかわかりませんでした。あと1分2分遅ければ、たぶんこうして皆さんにお話しすることはできなかったと思います。  
歩いて戻ってきた山田の町は跡形もありません。家は津波でガタガタと揺れくしゃくしゃです。プロパンガスのボンベが引きちぎられ、辺り一面でシューシューしています。ガスが水蒸気のように見えます。  
『助けでけろ〜!』とか細く声が聞こえますが、どこで声かしているかわかりません。助けようにも足場がぐちゃぐちゃで前へ進めません。そのうちガスボンベに引火して火災が起きました。私は助けを求める人を助けることができませんでした。自分の家族や会社のこと、そして自分の命を守ることが必死でした。今でもあの時、助けることができたんじゃないかと思出し、悔しい気持ちになります。何人もの友人や仕事仲間を亡くしました。  
遺体安置場所に行くときれいな遺体の友達もいました。流されて助けられないまま凍死したのです。その日の夜は雪が降るほど寒かったです。腕がなかつたり上半身だけの友達もいました。悲惨なものです。  
うちの会社の倉庫も加工場も流されました。私は、山田の町から出て、他のところで働いた方がよっぽど楽でした。が、しかし社長が「4代続いたこの会社をもう一度立て直して欲しい! 浜の復興は、水産業者がやらないといけない!」という言葉に後押しされて、もう一度会社をやり直すことを決めました。  
はじめはもちろん、つらいことばかりでした。でも今こうしてなんとかなって頑張っているのは、やはり支えてくれる人間関係があったからです。全国各地で仕事で知り合った人たちが応援してくれました。山田町は頑張っています。ぜひ、皆さんは沿岸の人々を忘れず、自分の道を頑張ってください。みなさんのことを思いだし、私もがんばります。」この頃つづ

見前中学校 第67期生徒会スローガン 「想創」 ～ 築く未来に心をのせて ～

平成25年 11月1日(金)  
盛岡市立見前中学校校報  
文責 副校長 福島 剛秋 NO.25

10月27日(日) 宮古・河南中学校の文化祭に参加し、  
交流を深めました。



鈴木淳一さんのお話を聞いたあと、山田町の町でお昼ごはんを食べました。津波の被害を受けた場所には、仮設の店舗があるだけで住宅はまったくありません。JR山田駅はその跡地だけがあり、山田線の線路は踏切のところだけを残して、あとは撤去されていました。2年半立ってもこのような状況にとても胸が痛みました。

復興ソングを一緒に歌ってました。



そういう山田町の現状を見たあとに、宮古市立河南中学校を訪れました。10月27日は河南中学校の文化祭「河南祭」です。今年、河南中学校生徒会は、復興ソング「未来へ」を自分たちの手で作りました。震災後の支援に感謝し、未来への希望を込めた歌を、地域の方々や交流をしている中学校と共に歌い、心に残る活動を目指したのです。「復興ソングを一緒に歌って欲しい」というお手紙と楽譜が見中にも届いたのは7月。はじめは「ビデオに撮って送って下さ

い」というものですが、「これは行かねばならぬ」と生徒会執行部と石岡先生の熱い思いが今回の訪問交流を実現させました。  
閉校せしモニーにサプライズで登場した見前中生の登場に河南中も大喜びでした。そして最後に会場にいる全ての人と一つになって復興ソング「未来へ」を歌ってました。河南中・保護者・地域の方々、そして見前中と手をつないでの合唱はとても感動的でした。あとで参加した生徒の作文を紹介します。

- ① 山田町に生徒会執行部を中心とした23名が赴き、鈴木淳一氏より東日本大震災津波からの復興にかける思いを聞いた。
- ② その後、宮古市立河南中学校の文化祭に参加し、今年度河南中学校が制作した復興ソング「未来へ」を共に歌ってきた。
- ③ 生徒集会において、生徒会執行部より山田町および河南中学校を訪れ感銘を受けたことなどを、全校生徒に伝講し、岩手県の復興に対する思いを新たにするとともにその決意を込めて復興ソング「未来へ」を合唱した。

### 【生徒の感想】

- ・鈴木さんのお話を聞き、沿岸地域の復興のためには水産業の復活がいかに大切か分かった。「働く場所」がなければ、人々の生活が以前と同じように営まれないということがわかり、逃げ出さずに「働く場所」を頑張って作り出そうとしている人々の苦労がよくわかった。また、岩手の復興のためには「自分の道」をしっかりと歩むことだということが、よくわかった。(3年生 男子)
- ・復興ソング「未来へ」は、人々の未来に向かう前向きな姿勢や気持ちが強く感じられる。また、支援してもらった人々への感謝の気持ちがつまんでいるとてもいい曲だと思った。これからもこの曲を歌い継いで河南中学校や震災のことを忘れないようにしたいと思う。(2年生 女子)

### 【まとめ】

- ・熊谷勸先生の講演をとおして、被災状況や震災の教訓に耳を傾け、自分には何ができるか、これからどうい生活をしていくか考える時間を持つことができた。中学生は岩手県全体を元気にする、なくてはならない存在に成長することが求められている。心の支援を継続することが大切であり、復興ソングはそのことを示してくれた。